

令和3年度 第2回米沢市行政経営市民会議 会議録（確定版）

【日時及び場所】

日時 令和3年10月8日（月）午後3時30分～

場所 庁議室

【出席者】

市民委員 石川栄樹委員、五百川満委員、岩崎令子委員、大竹茂委員、加藤英樹委員長、佐藤幸治委員、柴田正孝委員、須貝容子委員、砂川和彦委員、武田直子委員、中川恵委員、長谷川大輔委員、兵庫浩子委員

（杉本俊之委員は欠席）

本部委員 市長、総務部長、企画調整部長、市民環境部長、健康福祉部長、産業部長、建設部長、上下水道部長、会計管理者、市立病院事務局長、議会事務局長、教育管理部長、教育指導部長、農業委員会事務局長（選挙管理委員会事務局長、監査委員事務局長は欠席）

事務局 総務課長、財政課長、政策企画課長、政策企画課長補佐、政策企画課経営政策主査、政策企画課主任（教育総務課長は欠席）

【次第】

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員自己紹介及び事務局等紹介
- 5 委員長選出
- 6 委員長あいさつ及び副委員長の指名
- 7 議事
 - (1) 会議等の公開について
 - (2) 米沢市行政経営市民会議の審議事項について
 - (3) 第1回会議で出された質問に対する回答について
(KPIの変更、第2期総合戦略におけるKPIの県内比較)
 - (4) 米沢市公共施設等総合管理計画の見直しについて
 - (5) 財政健全化計画の報告について
- 8 その他
- 9 閉会

【議事要旨】

3 市長あいさつ

市長 皆さんこんにちは。ただ今、米沢市行政経営市民会議委員の委嘱をさせていただいたところであります。この2年間、何卒よろしくお願い申し上げます。我が国は人口減少、少子高齢化が進んでおります。米沢もこれからの新たな地域づくり、

まちづくり、或いは人づくりをどうしていくかということは、大きな課題になっている訳であります。そうした中、市民の皆様が米沢にどのような思いを馳せているか、そして、どのようなご要望を持っているかというところをしっかりと受け止めながら、まちづくりを進めていかなければならないものと思っております。多くの市民の皆様のご要望を叶えるため、常に効率的な行政運営を行っていかねばなりませんし、また、国県との連携も進めていかなければならないと思っております。米沢が持っている地域資源をどのように生かしていくか、どのように活用していくかということが重要な課題でありますし、コロナで大変な経済状況の中で、地元でできるものは地元でといった意識を持ちながら、地域経済を回していかなければならないと思っております。我々は市を経営していく上で、市民の皆様を税金をいただいている訳であります。市民の皆様が納得いただけるような活用をしていくことができるかということについて、取り組んで参らなければならないと思っております。米沢市は5月に内閣府のSDGs未来都市に選定いただいております。今日まで先人が作り上げてきた米沢を今度は我々が持続可能な地域づくりを行いながら、これからの世代の皆さんに受け渡していく責務を持っている訳であります。皆様の忌憚のないご意見をいただきまして、これからのまちづくりの指針にしていききたいと思っておりますので、米沢市全体の地域づくりについて、ご意見とご指摘をいただければ大変ありがたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

5 委員長選出

委員長：事務局より提案することで委員全員の了承を得て、加藤英樹委員が選出される。

副委員長：委員長が推薦することで委員全員の了承を得て、柴田正孝委員が選出される。

6 委員長あいさつ

委員長 改めまして委員長を拝命いたしました加藤でございます。よろしくどうぞお願いいたします。令和3年度第2回会議ということでございまして、年度の区切りと委員の委嘱期間でずれが生じておりました。既に第1回会議は進んでおります。今回初めて委員に就かれた方もいらっしゃいますので、進んでいる部分を追いついていただき、ご理解を頂戴しながら進めていかなければならないと思っております。市民としてそれぞれのお立場や委員としてそれぞれのお立場があると思っておりますので、ぜひ忌憚のないところでご意見を頂戴したいと思っております。それではよろしくどうぞお願いいたします。

7 議事

(1) 会議等の公開について

委員長 会議等の公開につきまして、従来から公開ということでやっておりますし、特に問題はないと思っておりますが、委員の皆様から特にご意見がなければ公開ということで進めたいと思っておりますが、よろしいですか。

(発言なし)

委員長

それでは公開ということで進めたいと思います。

(2) 米沢市行政経営市民会議の審議事項について

委員長

特に新任の委員の皆様には分厚い資料に目を通していただいて、それを要約いただいた内容だと思えますが、改めまして各委員からご質問、ご意見等ございましたら伺いたいと思います。

(発言なし)

委員長

説明の最後にもありましたが、コロナの発生のように状況が非常に大きく変わっていく中で、随時見直しをかけていかなければならないものも出てくると思います。そういった意味で既に策定されて進んでいる事業等も、さらに良い形に改めたり進化させたりするための様々なご意見を頂戴したいと思いますので、よろしく願いいたします。

(3) 第1回会議で出された質問に対する回答について

(KPIの変更、第2期総合戦略におけるKPIの県内比較)

委員長

改めて、資料3-1はKPIが「山形子育て・介護応援いきいき企業 優秀・実践企業数」でしたが、制度が変わったため比較ができなくなったということで、KPIを変更していくことになりました。それから資料3-2は米沢市の目標基準と実績だけではなく、他の自治体との比較はどうかという話でした。KPIのあり方も含めて他自治体を見て感じたところ、皆様のお立場に立った時にどういうものか、或いは追加する情報はこういうものがあるなどご意見を頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。

委員

今回、特に資料3-2の他市比較はすごく良い資料だと思うのですが、市ではデータを見て何か分析できたことがございますか。

事務局

私も資料を事前に目を通してありますが、やはり気付かされた部分が非常に大きいように思います。今まで自分の自治体の中だけで、伸ばしていこうという気持ちはある訳なのですが、他の市町村が伸びていてすごいと思うところもあって、もっと頑張らなければならないと相対的に思ったところが大きいと思います。特に、ふるさと納税は13市中13番目ということで、米沢市は単価が高いので平均単価は稼いでいるというところがあるのですが、件数はかなり他団体が頑張っている印象もあって、もっと頑張らなければならないというのが総じての感想でございます。

委員

こういう指標はそれぞれのデータがいろいろ噛み合っってこのような順位になっていると思います。例えば、年間観光客数1位は鶴岡市ですが、他に鶴岡市は自主防災組織の組織率でも1位です。そういったコミュニティの繋がりなど、組織的に鶴岡市は街を綺麗にしているのですが、多面的な面から見て観光客が集まりやすく、また来てみたいというアピールになっていると思うので、このデータはすごく価値があると思います。そういう意味で多面的にデータを見て、方針を見直したり、こういう施策に力を入れていけば他も伸ばせたりするのではないかとというように、施策を見直していただけたらもっと価値のある資料になると思います。今後もしこういったデータが集まるのであれば見せていただけたら勉強になると思いますので、よろしくお願いします。

委員

社会増減の実績が▲316人で12位だということは愕然としましたし、それからもっと人を呼び込むためには、やはり観光に力を入れる必要があると思っています。観光客数が米沢市は3位となっておりますが、コロナ禍の数字はまだ出てきていないと思うので、やはり街を綺麗にしていかなければならないと思っています。そうすることによって人を呼び込むこと、他から観光で呼び込むことも大切なので、やはり環境に力を入れていただきたいと思いました。また、県内他市の比較が非常に役に立ち、目に見える数字で大変に良いと思いました。

委員長

街を綺麗にという話が2人続きましたが、委員も先ほどごみ拾いの話をされましたが、どのような活動をしているのかも含めてお話しください。

委員

詳しい内容はフライヤーを持ってきたので、後で皆さんにお配りしたいと思っています。私は「ゼロ・ウェイスト・ウォーク」を通して米沢の街はものすごく綺麗だと実感しています。今まで北村公園、西條天満公園、図書館周辺、河川敷など、6ヶ所ほどでごみ拾いをしてきたのですが、東京ではやればやるほど捨てる人が出てくる感じでしたが、米沢市はとても綺麗で、見つかるのはたまにペットボトルやたばこの吸い殻です。もう少し一人一人がタバコの携帯ケースを持つなど、ごみをちゃんと捨てるという意識を持ってもらえればもっと綺麗になると思います。

私に分かる範囲で思ったことですが、観光客数1位が鶴岡市ですが、鶴岡市の「スイデンテラス」というホテルに泊まったことがあるのですが、食事も地産地消でお風呂もとても良く、自転車も貸し出していて、サイクリングもできます。街ぐるみで観光客が来た時に楽しめるというシステムがなされていて素敵だと思っていますが、米沢を見たときに「スイデンテラス」のようなホテルがまだないように思います。土産のデザインのパッケージなども鶴岡市は素敵なので、米沢は米沢牛もそうですが、お米など良いものもたくさんあるので、パッケージングにも力を入れてはどうかと

思いました。あと、ふるさと納税申込件数で寒河江市が1位なのですが、どういったものがあるのか教えていただけたら嬉しいです。

事務局

寒河江市のふるさと納税の寄付金額は、約6割をお米が占めているとお聞きしています。米沢市もお米があるのですが、寒河江市の特徴はお得感のある米を出しており、安い金額で量がある形です。米沢市についても協議をしたのですが、なかなか安くできなかったということもありました。寒河江市の場合は量でアピールしており、約6割をお米が占めているという状況でありました。

委員

個人的には安いという方向性のブランディングもあると思うのですが、上和田の方で有機農業をされている方のお米もとてもブランド価値があると思うので、高いけどこれが本当の価値だという方向性でブランディングができれば伸びるのではないかと思います。

委員

ぜひ、農協にご相談いただきたいと存じます。折しも数が少なくなっている農家が地産地消という合言葉に頑張っているというところもありますので、持続可能な農業ということも目指しながら、担い手の育成に力を入れていき、いろいろな作物にチャレンジする若手の農家も徐々に出てきておりますので、ぜひ応援いただきたいと思います。また、学校給食ですとか数が揃わないこともある訳ですが、ふるさと納税では、上から読んでも下から読んでも「米沢米」というようなこともあってPRの要素はあるという思いでもおります。

また、全国の市や町などで同じような立ち位置にある、例えば、米沢市は市制施行を初めてした全国22市のうちの一つでもありまして、その辺りとの比較も必要だと思います。やはり少子化はどこに行っても重要な問題なのではないかと思いますので、その施策も共に考えていきたいと思えます。健康や子育てが大事という言葉だけでなく、具体的な施策も出していくべきと思っております。

委員長

米沢市の場合、ふるさと納税はパソコンや米沢牛などの比率が大きいということで、1件当たりが高いということだと思います。

委員

短大の県内就職率のことで補足です。第1回会議の評価シートだと基本目標1の「新規地元大学・短大卒業求職者の県内事業所への就職率」という項目で米沢女子短大の割合が30%を超えて前年比10%以上増加したという文言があり、なぜかと思って大学に尋ねてみました。今年度も昨年度同程度、若しくはそれを上回るペースで、県内就職が決まっている状況と聞いています。ですが、コロナウイルスが拡大している地域での就職を避けているためだということで、状況が変わるとこの数字は大きく変動する

だろうと大学としても考えているようでした。もちろん、米沢女子短大も栄養大学も県内に貢献する、地元貢献する、人材の育成がとても重要な柱ですが、何かのきっかけでIターン、Uターンなさるという方も非常に重要ですし、この基本目標1は働き続けることができるということで、要は定住をイメージしている目標だと思います。基本目標2は交流など関係人口という言葉でイメージされる観光などを含めたところであるというように分けて考えてみると、ここに載せる数値の目標として、今はどちらかという、新卒でそのまま米沢に生まれ育った人がそのまま勤めるというイメージのものが前面に出ているのですが、Iターン、Uターンを含めた移住者数であるとか、そうした様々な交流関係事業を通じた定住という項目があっても良いのではないかと思います。

事務局

移住も定住もどちらも大切な要素だと思っています。移住もコロナの関係で首都圏から地方への移動ということも言われておりますが、米沢まで足が伸びるかどうかというところはありますけれども、そういったところも頑張っていかなければいけないと思いつつ、やはり地元の高校生や学生が、地元に残るといことも非常に大切にしていかなければならないと思います。先ほどの他市との比較でも、高校生の県内事業所への就職率が他の地域よりも低いと思っておりますので、そういったところを上げていくとか、頑張らなければいけないと思っています。

委員

ハローワーク米沢で昨年度、高校を卒業して内定した生徒に意識調査を実施したことがあります。今日それを持参していないので、詳しいことを述べられないのですが、なぜ他県への就職を希望するかというアンケート項目に対して、雪を挙げる生徒が比較的多くございました。あと、米沢では就きたい仕事がないという意見も多かったと思っております。私も前職はハローワーク村山にいたものですから、高卒就職者のほとんどが自宅から通勤するという認識でいたところから米沢に来まして、こんなに県外に目が向いているのだとびっくりしたところです。ただ、担当者等に聞きますと、どうしても子どもは雪のないところに行きたがることと、今は親も好きなようにして良いと声掛けすることもありまして、そういった意識でいる感じが見受けられます。

今年の高卒の求人は、昨年よりもさらに多くの求人をお願いしております。非常に求人倍率が高い売り手市場という状況にあるのですが、高卒の求人は比較的賃金単価が低いという担当者からの声もございます。やはりこれでは他県に目が向くという話がありました。地元から通えば通勤、住居費等が少なく済むので、地元で就職する方がメリットはあるのではないかと思います。子ども或いは親はそういった地元でという認識が少ないところがございます。

事務局

今のお話にありましたとおり、転出者が多いという状況にあるのですが、特に18歳、22歳の転出人口が多いというのがデータからも見て取れます。今後は地元にて何とか定着いただくような施策を進めていくことが重要だと考えております。今、ご意見がありましたとおり、自宅から通うというのは非常に大きなメリットがあります。雪は以前に他の計画を作った時のアンケートでも、転出した若い世代の一番の理由は雪というのがありました。雪はどうしようもないことをございますが、住みやすい街をつくる、そういった観点から、例えば、交通環境、住環境、自分のしたい仕事ができる環境のような整備を市の施策として進めていきたいと考えております。

委員

他市状況と比較すると非常に分かりやすくなり、計画や目標値も立てやすくなると改めて思ったのですが、一番気になったのが、自主防災組織の組織率です。他市を比べると山形市でさえ84.5%です。この70.3%になっている理由は何かあるのでしょうか。

事務局

米沢市は残念ながら以前から県内で低いところをずっと推移しているところをございます。低い理由をございますが、幸いと言って良いのかですが、米沢市は大きな災害に見舞われたことがないということもあります。地区において様々な出前講座でお話しさせていただく中でお聞きすると、やはり防災に対する意識が残念ながら高くないという形をございます。こういったものは災害が発生すると防災意識が高くなってくるともあり、そういったことを契機に組織率も急激に上がる年もあったところをございます。そういった中で米沢市は低い位置にいるということをございます。あと、お住まいの方々のお話を聞きますと、昔から住んでいらっしゃる方と引っ越しされてきた方、その意識の違いで地域として統一した行動に移すことができなかつたという事例もあると聞いているところをございまして、それら意識の問題が理由の大きな一つだと考えているところをございます。

委員

だとすれば目標値が令和6年で90%は妥当でしょうか。皆さんの意識が足りないとか地域で災害が少ないとか、南陽市、長井市もそれなりの数字を出していますし、鶴岡市、酒田市というある程度大きい市の数字に対して、米沢市は90%で良いのかと思いました。東日本大震災辺りから始まっていることだとは思いますが、あの時の災害で多少なりとも被害にあっているし、啓蒙活動や周知活動を行い、積極的な組織化をしていかなければいけないのではないかと思います。

事務局

目標として90%ということですが、将来的には当然100%を目指して各地区の方に働き掛けを行っていきたくて考えております。コミセンを中心

にお話させていただくということもありますし、新たに組織を作ってくださいことも当然大切なことではございますが、一度組織化いただいた地区でもその活動が継続できるような支援も何か形のあるものとして作り上げていく必要があると考えているところでございます。なかなか数字が上がらないということもございます。確かな情報という訳ではございませんが、自主防災組織の捉え方が自治体でも若干の差異があることも聞いております。米沢は厳格に考え過ぎなのではないかということもございまして、その辺りを緩めても組織として見做すことができるような組織のあり方も検討しながら、各地区にお願いしていく活動は続けて参りたいと考えているところでございます。

委員

防災のことだったのですが、宅配便などは仙台に集約して各地域に回るといったことだったのですが、いろいろなものが削減されている中で災害が少ない米沢なので、そういう場所を米沢に置けないものかと思いました。そのようにすれば収益も上がり、人口ももっと増やせるのではないかと思ったところでした。トラック業界などを集めることができれば、もっと人口が増やせるのではないかと思ったところでした。

委員長

東日本大震災の時に流通が悪くて大変だったので、様々の事業の拠点を米沢の地に持ってくれば、もっと良くなるのではないかということは行政や産業界等が協力し合っていく今後の重要な課題だと思います。

(4) 米沢市公共施設等総合管理計画の見直しについて

委員長

当面見直しの方向ということなのですが、継続の委員の皆様で何か補足、或いは新規の委員の皆様で分からないことなどございますか。今後見直しを進めていくという状況の中で、次回の委員会で改めて内容を確認させていただくことで進めてよろしいですか。

委員

公共施設の総合管理計画の見直しということですが、主に学校の統廃合により20年間で20%ということなのでしょう。

事務局

小学校の統廃合による削減面積を20%にするかということかと思いますが、公共施設全体で総じて面積を20%削減することで、財政の平準化などを狙っていこうというものでございます。

事務局

補足ですが、基本的には米沢市内の公共施設全体で20%面積減らすのですが、その中で小中学校を統廃合することによって、その面積を減らす部分がかかなり大きいものを占めているということでございます。

委員 南原中が先駆けて廃校になって、二中に南原の子どもたちは通っている訳ですが、活用の仕方はその当該地域の方々の意見を最優先しなければならないと思います。例えば、山大工学部は大分手狭になっており、学生も不便な思いをしているので、貸出や売却などそういった方向性も総合的に考えていただきながら、山大工学部米沢南キャンパスなどの方向もあるのではないかと思います。米沢市も財政的には多少のプラスになるという思いで、ただ削減という方向ではなく、利活用という方向も考えていきながら進めていただきたいと考えております。

事務局 今、ご意見にありましたとおり、廃止された施設を活用することは重要だと考えております。ただ、公共施設等総合管理計画の一番の考え方としては、人口減少が進んでいる中、公共施設をできるだけ縮小して負担を減らしていくという大きな考え方がございます。市の方針としては、まず地域の方がご利用を希望される場合は地域の方でご利用いただき、それができない場合は、民間の活用も募集等をかけて検討していき、それでもまだ利用の希望がない場合は、施設の廃止を検討していくという考え方をしていくところでございます。施設の利活用は非常に重要な視点かとは思いますが、施設を維持していくことも大きな負担となりますので、いろいろなご意見を聞きながら進めていきたいと考えております。

委員 南原中の場合、山大のある教授の方からぜひ山大でも使わせていただきたかったという話があったことも申し添えておきます。

(5) 財政健全化計画の報告について

委員長 コロナ禍ということで大きな影響を受けているところでありますけども、皆様いかがですか。

委員 今の説明をお聞きしまして、歳入が増えているというところで、私の概念だとコロナ禍で税収が減るのかと思っていたのですが、これが増えた理由というのは、どのように受け取ればよろしいでしょうか。

事務局 令和2年度の個人の市民税につきましては、前年度の収入に対しての課税となりますので、まだコロナの影響が少なかった、或いはなかった時期だったと思っております。また、法人市民税につきましても、決算時期で課税となりますので、まだそれほどの影響がなかったためだと考えております。これは国税の方でも同様の状況を見せておりますので、今年度どうなるかというところを注目していかなければならないと考えております。

委員 この財政健全化計画を見ますと、計画の進捗状況、単年度収支は毎年微

妙に計画とずれながらも、累計や収支比率、年度末の財源調整金の残高が増えていて、非常に計画を上回るような流れで素晴らしいと思ったところでした。ただ、これだけ違うと本当に正しい計画だったかと疑問に思ったのですが、いかがでしょうか。

事務局

歳入は市税の動向、或いは普通交付税の動向というのが非常に大きなところを占める訳ですが、その動向を見込むというのが実際は難しいところであります。また、雪の状況として平成27年度が少なかったということもありまして、それらの動向によって、こういった状況になっていると考えております。逆に言うと良い方向になったと考えておりまして、これ以上悪化しないように今後は気を付けていきたいと思っております。

8 その他

事務局

次回、第3回の行政経営市民会議でございますけれども、次回3月ごろを予定しております。期日が近くなりましたら、改めてご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

9 閉会

※ 本委員会に関しては公開、会議録については要点筆記で委員の名前は記さないことになっております。